

平成21年度

農業振興公社ニュース

第5号

平成二十一年度
第一回通常総会を開催

当公社は、去る5月28日午後2時40分より社団法人宮崎県トラクク協会二階研修室において、社員総数49名中45名（委任状出席含む）の出席のもと、平成21年度第一回通常総会を開催しました。

当日は、まず、当公社の長友理事長が「新たに策定した改善計画のもと公社の経営改善を図っていききたい。」と抱負を交えて挨拶。引き続き、東国原英夫宮崎県知事（伊藤孝利宮崎県農政水産部長代読）の祝辞の後、宮崎県土地改良事業団体連合会の黒岩常務理事を議長に選出し、平成20年度事業報告並びに収支決算、役員選任の議案について審議がなされ、原案のとおり承認されました。

選出された役員の皆様（任期平成23年6月1日まで）

理事 伊藤孝利（宮崎県農政水産部長）、同 渡辺義人（宮崎県教育長）、同 津村重光（宮崎市長）
同 首藤正治（延岡市長）、同

宮崎道公（えびの市長）、同

瀬道大（野尻町長）、同 前田

（綾町長）、同 椎葉晃光（椎葉村

長）、同 高元 豊（宮崎県農業会

副会長）、同 横山 勉（宮崎

県農業協同組合中央会会長）、同

羽田正治（宮崎県経済農業協同組

合連合会代表理事会長）、同 宮

崎幸雄（宮崎県信用農業協同組合

連合会代表理事理事長）、同 黒

木泰弘（全国共済農業協同組合連

合会宮崎県本部長）、同 工藤悟

（宮崎県農業共済組合連合会会

長）、同 黒田 昭（宮崎県土地

改良事業団体連合会会長）、同

森水利幸（宮崎中央農業協同組合

代表理事組合長）、同 新森輝吾

（都城農業協同組合代表理事組合

長）、同 長友育生（学識経験者）

同 近岡義博（学識経験者）

同 監事 内野官正英（川南町長）

同 横山忠男（宮崎県経済農業協

同組合連合会代表理事副会長）、

同 西北 靖（学識経験者）

「みやざき発・業務用農産物
生産拡大事業」が始まる。

◎ 本年度からの県の新規事業です。農業振興公社が事業実施主体となつて取り組みます。

一 産地育成推進事業

・ 関係機関で構成する「戦略品目検討委員会」を設置し、本県で振興を図る業務・加工用農産物の選定、振興方策の検討、モデル生産集団の育成による産地化を推進します。

二 契約販売促進事業

・ 食品加工や流通メーカーとの契約取引を拡大するため、農業団体と農業法人とが提携して行う商談会の開催、商品の開発、量販店での試験販売などを支援します。
（※農業団体の外、農業法人も本事業に取り組みます。）

三 生産組織育成支援事業

◎ 「特定農業法人志向型農作業受託組織育成支援事業」農作業受託組織等が、集落の担い手となり業務用農産物の生産拡大を図る場合に、10a当たり一万3千円以内を助成します。水田農作の活用、耕作放棄地の再生利用など耕地利用率の向上や農地の面的な集積を図るため、集落で調整する活動を

行えることが条件です。

◎ 「建設用農機農作業受託組織育成支援事業」農作業受託組織等が建設業者等に対し、業務用農産物の生産拡大に係わる農作業を新たに委託した場合に、10a当たり7千円以内を助成します。（※①と②の事業を同時に取り組めば10a当たり2万円以内を助成します。）

◎ 農作業受託用農業機械リース事業・①または②の事業に取り組む農作業受託組織等が、業務用農産物を生産するために必要な機械を、農業振興公社がリースします。

※ ①②の事業は、おおむね1ha以上の産地となることが要件です。

◎ 農業振興公社または県農政水産部連携推進室（0985-26-7124）にご相談ください。



小林市営牧場の再編整備事業 が完了



小林市営牧場（完成）

当公社が事業主体として実施しました畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型）西諸地区小林市団地の事業が完了しました。

小林市営牧場は平成十七年度に測量設計を開始してから平成二十年までの四年間に、草地整備等の基本施設の整備をはじめ、畜舎等の農業用施設の整備、それに飼料生産管理用の農機具等の整備を実施してきました。整備した内容は、草地造成24、86ヘクタール、施設用地造成一ヘクタール、道路整備1080m、場内道路整備4

35m、流末排水路整備700m、場内幹線排水路整備385m、場内側溝630、5m、牧場1500m及び育成舎、飼料庫、農具庫、監視舎各1棟、飼料草地管理用の農機具等導入12台となっております。

平成二十一年五月二十五日には小林市営牧場において、堀泰一郎小林市長をはじめ、地元市議会や西諸農林振興局長、施工業者等出席の中竣工式が執り行われました。再編整備がなされたこの市営牧場は、環境的にも素晴らしい場所に位置し、今後西諸農林地域の畜産事業の発展の中心的な役割を担っていかれることと思っております。（畜産施設課）



竣工式での堀小林市長のあいさつ

経営体育成基盤整備事業 「横市地区」の竣工式開催

県が平成五年度から基盤整備を進めていた経営体育成基盤整備事業「横市地区」（都城市横市町）が平成二十年度をもって完了したことを受け、水士里ネット横市（松田時夫理事長）と宮崎県北諸農林振興局との共催により、去る5月20日午前10時より、関係者230名の出席の下、竣工記念式典が開催されました。

式典ではまず加治屋頭首工左岸の現地において、厳かに神事が執り行われ、松田時夫理事長他一八名により玉串が奉奠されました。

次に、事業関係者並びに来賓の方々により竣工記念碑の除幕が執り行われました。

その後、会場を市内のホテルに移し宮崎県北諸農林振興局主催による竣工記念式典では、小八重北諸農林振興局長の式辞に引き続き、諸岩北諸農林振興局技術次長より事業の概要及び経過報告が行われました。

農業振興公社は、平成十年度から工事を受注し、地区内の区画整理工事の8割に相当する132ヘクタールの整備を施工させて頂きました。工事期間中は地元土地改

良区の皆様や北諸農林振興局及び都城市役所を始め関係機関の御指導・御協力によりまして工事を完遂できました事に深く感謝申し上げます。

地元横市土地改良区におかれましては、整備されました大区画の農地で収益性の高い営農が展開され、横市地区がますます発展されることをお祈りいたします。

「地区の概要」

○受益面積	160ha
○道路工	36、348m
○用水路工	35、076m
○排水路工	29、509m
○事業費	5、881百万円



建立された竣工記念碑

甦る農地!

優良農地創出事業

当公社では、耕作放棄地の解消を行うため平成20年度から、みやざきフロンティア農地再生事業に取り組んでおります。

その中で、国庫補助事業を活用した「優良農地創出事業」により県下全域において耕作放棄地を優良農地に再生する工事を実施しましたので、概要と実施事例をご紹介します。

【再生整備実績】

○実施市町村数・・・24

○実施地区数・・・187地区

○再生農地面積・・・76,5ha

(田22,0ha、畑54,5ha)

○10ヶ当りの費用平均229千円

○再生整備の内容

① 伐採・抜根

② 農業用ハウスの補修・撤去

③ 鳥獣被害防止ネット上(電柵)

④ 放牧用施設等

【耕作放棄地解消の実施事例】

① 場所く児湯郡新富町大字新田

② 面積く42,748㎡

③ 整備に至る経緯

★当該農地は、元茶園であるが所有者が規模縮小のため売渡先を探していたものの、現況茶木が在来

種のため購入希望者が現れずここ数年雑草や雑木が繁茂していた。そこに、町内で大規模に露地野菜生産を行っている農家が甘藷の作付けを希望したため、全茶木の抜根と破碎を行った。★

④ 再生整備の手法

○ 抜根くバックホーのアームに取り付けた装置で茶木を挟んで抜き取る。

○ 破碎く抜き取った茶木を移動式のシュレッダーに投入して破碎



② 破碎作業

① 抜根作業



再生後甘藷の作付けされた農地

事例紹介コーナー

一生を懸けられる仕事がしたい
新婚夫婦の協力経営

ミニトマト栽培(二十四年)
小林市 堀
小川 道博
林末さん夫婦



小川さん夫妻は、平成20年6月に小林市でミニトマト栽培を開始し一年が経過しました。道博さんの出身は小林市で祖父が農家でした。当初は農業をするつもりはまったくなく、平成12年にシステムエンジニアとして東京で就職しました。しかし都会での生活の中で、一生懸けられる仕事があった、好きなことで人生をおくりたいと思うようになりました。

妻林末さんとは職場での出会い。農業のことはまったく知らなかったが、もともと何にでも挑戦するのが好きで二人で道博さんの地元に戻り農業の道に進むことを決めたそうです。

とはいえ当初は漠然と農業がしたいという考えだけであつたため夫婦二人揃って、まずはみやざき農業実践塾の体験コースやJAでの研修を受講した後、みやざき農業実践塾の実践コースで一年間の研修と、さらに研修受入農家であ

る山口安彦さん(都農町ミニトマト栽培)のもとで一年間研修を受けました。実践塾では農業の物づくりの楽しさを知り、次の農家研修で農業の大変さを学びました。そして3年目、実践経営を開始してみても、農業は楽しいという思いと同時に、すべての責任が自分たちにかかってくるキツさも感じるようになったそうです。

小林はミニトマト栽培農家がありまらないこともあり、ミニトマトにこだわっての就農には色々な苦労もあつたようですが、地元のJAや関係機関の支援のもと就農することができました。

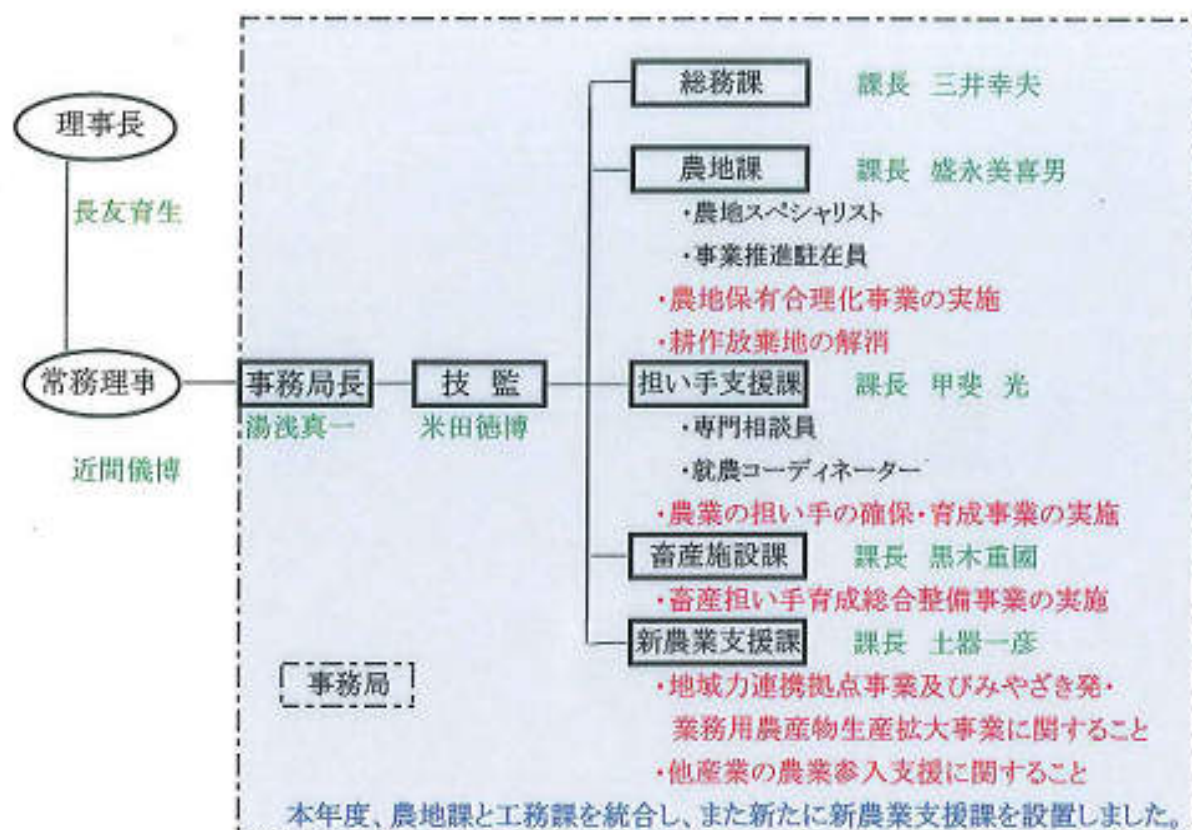
現在は、完熟したおいしいミニトマトを出荷したいというこだわりをもち、地元のスーパーや、直売所に直販しています。選別、パック詰めも両親に協力してもらいながら、自分たちで行っています。また、今まで地域の方々に協力してもらった分貢献したいという思いもあり、周辺の小、中学校給食用に安く卸したりもしているそうです。SAPの活動にも積極的に参加されています。

農業も結婚生活も2年目を迎えたばかりの二人は新たな一歩を踏み出そうとしています。

HP: www.miniokfarm.com/

公社の組織体制

平成21年4月1日現在



担い手支援課就農相談等行事予定

6月 2日	中部地区地区別推進会議	6月 23日	西臼杵地区地区別推進会議
6月 4日	南那珂地区地区別推進会議	6月 24日	東臼杵地区北部地区地区別推進会議
6月 10日	児湯地区地区別推進会議	7月 4日	新農業人フェア・定年帰農フェア(大阪)
6月 11日	西諸県地区地区別推進会議	7月中旬	就農支援資金推進会議
6月 18日	東臼杵南部地区地区別推進会議	7月末	新農業人セミナー(夏季)
6月 19日	基金事業運営企画会議	8月	ふるさと就農説明会(県内)

《6～8月の主な行事》

- 6/16(火) 全国農地保有合理化協総会 [東京都]
- 7/7(火) 平成21年度農地実務担当者会議 [宮崎市]
- 7/21(火) 宮崎県農業会議常任会議員会議 [宮崎市]

皆様方からの御質問・御要望等を心からお待ちしております

発行 宮崎県農業振興公社
 宮崎市恒久一丁目七番地十四
 TEL(0985)5112011
 FAX(0985)5118006
 HP <http://www.mak.or.jp>